

みなぎる力！湧き上がる希望！スノーデントで未来を描こう！！

=スノーデントシリーズの有効利用と品種紹介=

1. はじめに

新しい一年がスタートしました。皆様今年の飼料用トウモロコシ栽培はいかがでしたでしょうか？

近年は気象条件が目まぐるしく変化する中での栽培ですが、本稿では、弊社のトウモロコシ品種を皆様の自給飼料生産にお役立ていただくため、あらためて府県用トウモロコシ品種「スノーデントシリーズ」の早晩性による使い分けと、各品種の特性について紹介をさせていただきます。

2. 早晩性による使い分け

府県では幅広い熟期の品種が利用されますが、弊社のスノーデントシリーズの早晩性の分類と、それぞれの早晩性をどのように使い分けるかについて簡単にご説明いたします。

(1) 早生品種 (RM110～RM115クラス)

RM110～RM115クラスを早生品種として分類しております。早生品種は、早播き利用に適しており、「西南暖地」や関東以西の「一般地」ではおおよそ4月、「東北、寒冷地」ではおおよそ5月の播種になります。播種適期以降に播種を行うと、発芽～初期生育の段階から気温が高く、生育期間を十分に確保できずに短程で出穂したり、病害の発生により減収したりすることがありますのでご注意ください。また、これらの品種は西南暖地、一般地では7月下旬から8月上旬に収穫が可能ですので、二期作体系の一期作目としての利用にも適します。弊社では「LG3490」、「スノーデント110 (LG30500)」、「スノーデント115 (SH4681)」、「スノーデント115ポラリス (SM8446)」の4品種を取り扱っております。

(2) 早中生品種 (RM120クラス)

RM120クラスの品種を早中生として分類しております。早中生品種は、早生品種同様に早播き利用に適しており、播種適期もおおよそ早生品種に準じます。また、適期以降の播種についても早生品種同様、減収につながりますので注意が必要です。これ

らの品種も二期作体系の一期作目としての利用が可能です。早生品種より熟期がやや遅いため収穫期も早生品種より遅くなりますので、二期作体系の一期作目としてご利用いただく際は、適期内でも早めの播種をお勧めします。弊社では「スノーデント118R (SH5702)」を取り扱っております。

(3) 中生品種 (RM125クラス)

RM125クラスの品種を中生として分類しております。一般的にRM125クラスの品種は早播き～遅播き、また品種によっては夏播きにも利用でき早生・早中生品種より播種期の幅が広く関東以西では最も利用の多い熟期の品種です。留意点は、生育初期の低温期が苦手な品種が多く、品種によっては早播きしすぎると生育不良を起こす場合があります。この熟期帯で取り扱っている3品種はそれぞれ異なった特性を持っておりますので以下で詳しくご説明いたします。弊社では「スノーデントSH4812」、「スノーデント125T (SH2821)」、「スノーデントおとは (PI2008)」の3品種を取り扱っております。

(4) 晩生品種 (5月播き～二期作利用)

晩生品種はRM125クラスよりさらに登熟が遅い品種です。一般的にこの熟期の品種では常に温度の高い環境を好むため、早播き利用は適しません。もちろん早播きした場合も全く育たないわけではありませんが、発芽後の低温により生育が停滞したり、その後も生育不良が現れたりすることがあり本来の能力を発揮できません。播種は西日本で気温が十分に上がってくる5月中旬以降が適期です。弊社では「スノーデント夏皇 (SH2933)」を取り扱っております。

3. 品種紹介

(1) 110日クラス

① LG3490 (旧商品名スノーデント108)

初期生育に優れ、「ごま葉枯病」、「すす紋病」耐性に優れる！

110日クラス並みの乾物収量性！

2011年から販売しているスノーデントシリーズの



写真1 LG3490



写真2 スノーデント110 (LG30500)

表1 LG3490の総体乾物率

品種名	総体乾物率 (%)			
	2019年	2018年	2017年	3 か年平均
	全場所平均	全場所平均	全場所平均	
LG3490	34.3	40.9	31.8	35.6
他品種A	31.9	36.3	27.9	32.0
他品種B	30.5	35.4	26.4	30.7

2019年：弊社熊本、宮崎、千葉、栃木 4 場所 8 試験の平均値
 2018年：弊社熊本、栃木、岩手 3 場所 6 試験の平均値
 2017年：弊社熊本、宮崎、千葉、栃木、岩手 5 場所 8 試験の平均値

中では最も熟期が早いRM108の品種です。「ごま葉枯病」や「すす紋病」に対し十分な耐性を持っており、ややスリムな草姿ですが雌穂収量が高く多収な品種です（写真1）。また水分抜けが早く総体乾物率が高い傾向があり（表1）、早期の収穫が可能なたため二期作目を少しでも早く播きたいとお考えであればその一期作目としての利用に適します。

②スノーデント110 (LG30500) 「2020年新発売!!」 長稈で茎葉ボリュームに富む多収品種！

2020年から新発売となりましたRM110の品種です。茎葉、雌穂収量性ともに優れ、「ごま葉枯病」、「すす紋病」耐性にも優れる品種です（写真2）。収量性については、北海道から九州まで様々な地域で安定して多収な結果が得られております（図1）。また、LG3490と同様に二期作の前作利用にも適した品種です。さらに弊社宮崎試験地では、近年九州で問題となっている苗立枯病と考えられる生育初期の

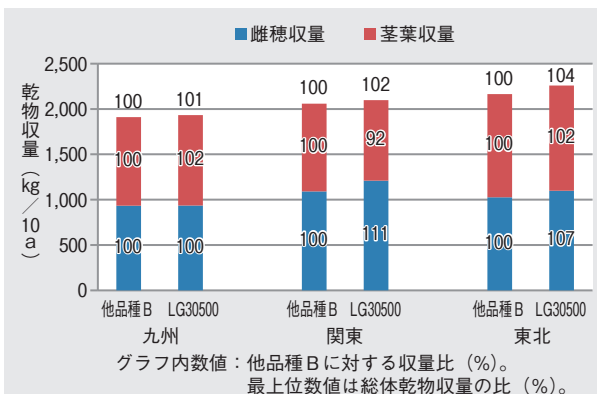


図1 LG30500の収量性

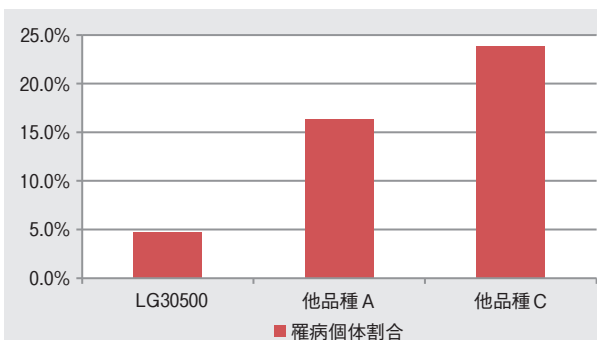


図2 苗立枯病と考えられる罹病個体割合
(2017-2020年4カ年平均 弊社宮崎試験地4月上旬播き)

枯死症状が少ないというデータが得られております（図2、写真3）。気象の年次変動が大きい近年の栽培条件の中で、品種選びの選択肢の一つとして「スノーデント110(LG30500)」をお勧めいたします。

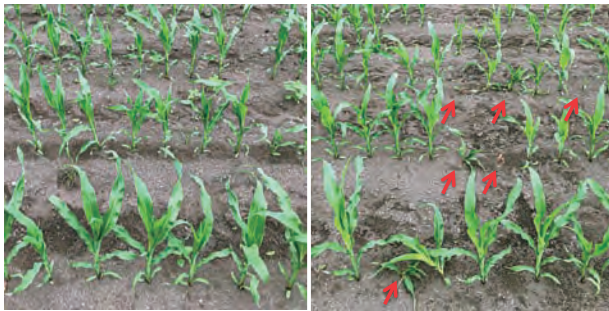


写真3 LG30500 他品種C
苗立枯病と考えられる症状（赤色矢印）
(2020年 弊社宮崎試験地 4月上旬播き)

(2) 115日クラス

①スノーデント115 (SH4681)

大きな雌穂で高TDNサイレージ作りを！

2006年からの販売よりご愛顧いただいているRM115のロングセラー品種です。大きな雌穂の多収品種であり高カロリーサイレージに向きます。栽培にあたっては栽植密度を6,500本/10a前後とし、雌穂多収の特性を最大限に生かしましょう。

(3) 120日クラス

①スノーデント118R (SH5702)

耐病性に優れる、子実安定多収な品種！

2019年から販売を開始したRM118の品種です（写真4）。まず特徴として挙げられるのは、不稔が少なく（図3）、なおかつ大きな雌穂で雌穂収量性に優れており（図4、図5）、栽培地や栽培環境の変



写真4 スノーデント118R (SH5702)

化による影響を受けにくく収量性が安定しているという点です。もちろん「ごま葉枯病」、「すす紋病」に対して十分な耐性を持っており、また耐倒伏性にも優れ、安定的に多収を得られる品種です。

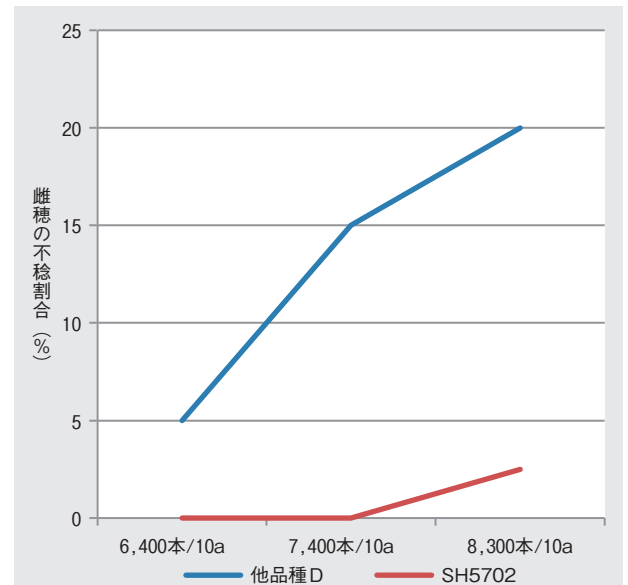


図3 SH5702の雌穂不稔割合
(2016年 弊社千葉研究農場)
試験は栽植密度6,400、7,400、8,300本/10aで実施

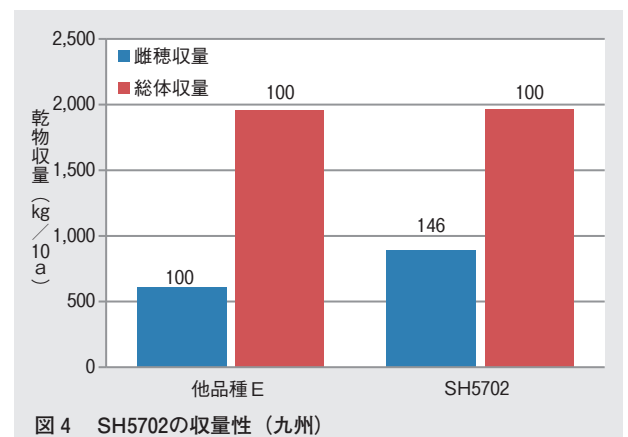


図4 SH5702の収量性（九州）

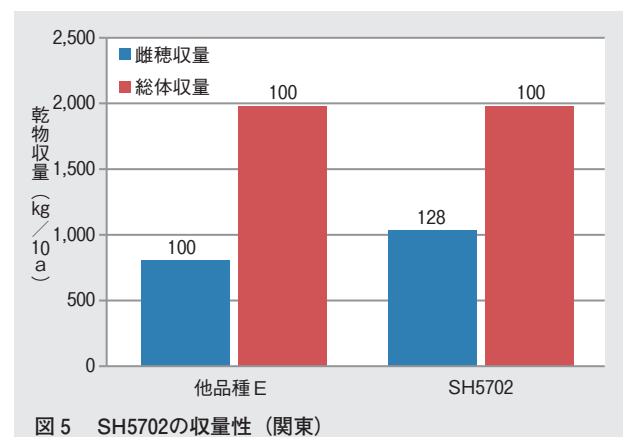


図5 SH5702の収量性（関東）

(4) 125日クラス

①スノーデントSH4812 (SH4812)

大きな雌穂の乾物多収な中生品種！

2017年から販売しているRM125の品種です。大柄な草姿と大きな雌穂を併せ持つ収量性に優れる品種です(写真5、図6)。市販のRM125クラスの品種の中ではやや登熟が早く、特に西南暖地での栽培ではRM120に近い特性を示します。RM125ではありますが、生育初期にゆっくり温度のかかる早播きでの利用で特に能力を発揮し多収が期待できます。またその特性により西南暖地では二期作体系の一期作目としても利用可能です。留意点はRM125クラスではありますが早生から早中生の品種に近い特性であるため、生育初期から高い温度のかかる適期以降

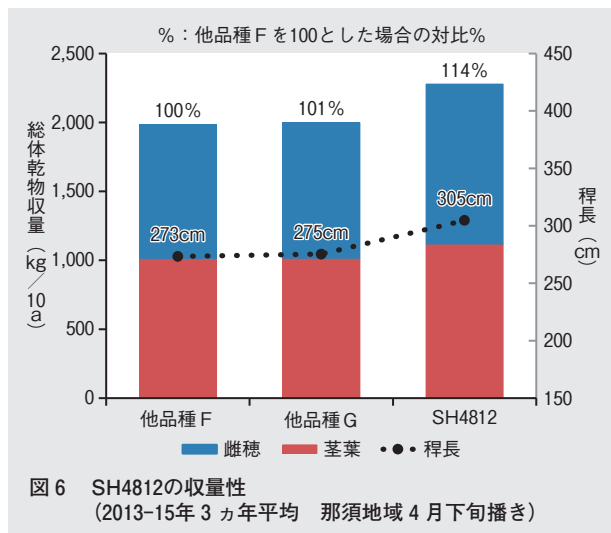


写真5 スノーデントSH4812

の播種では短稈出穂や病害ストレスを受けやすくなります。播種時期が播種適期以降になる場合は後述する他のRM125クラス以降の品種をご利用ください。

②スノーデント125T (SH2821)

耐病性に優れ、総体乾物多収の大型中生品種！

2015年から販売を開始したRM125の品種です(写真6)。収量性に優れ、「ごま葉枯病」や「すす紋病」耐性、耐倒伏性も優れる品種です。前述した「スノーデントSH4812」とはタイプが異なり、早播きから遅播きまで幅広く利用できる品種です。RM125クラスをトウモロコシ二期作の一期作目として利用し、出来るだけ早い収穫をお考えの場合は「スノーデントSH4812」のご利用をお勧めします。

③スノーデントおとは (PI2008)

耐倒伏性、耐病性に優れる乾物多収品種！

2016年から販売を開始した、九州沖縄農業研究センターと弊社とで共同開発したRM127の品種です(写真7)。本品種は特に西南暖地で重要になる耐倒伏性、耐病性に重点を置いて育成されています。特徴的な点は、優れた耐倒伏性(写真8)と遅播き～夏播き栽培で特に重要になる「南方さび病」に対する抵抗性遺伝子を持っているという点です(写真9)。また、播種期幅も幅広く、西南暖地の4月中旬ごろから夏播きまでの利用が可能です。また夏播き栽培では生育後半の秋季に気温が低下し登熟が十分に進まないことが多いですが、「スノーデントおとは (PI2008)」は比較的登熟が早く水分含量の少ないサイレージ調整が可能です。



写真6 スノーデント125T (SH2821)



写真7 スノーデントおとは (PI2008)



写真8 PI2008の耐倒伏性
2016年台風16号通過後の様子 (弊社宮崎研究農場)



写真9 PI2008の南方さび病耐性
(左3葉がPI2008、右3葉は他品種)

(5) 遅播き～夏播き

①スノーデント夏皇 (SH2933)

ワラビー萎縮症耐性、耐倒伏性に優れ、ボリューム感のある草姿で多収を実現！



写真10 SH2933のワラビー萎縮症耐性

2014年から販売を開始した、遅播き～夏播きに適した晩生品種です。特徴としてまず挙げられるのは熊本県、鹿児島県の一部地域で発生する「ワラビー萎縮症」に対して耐性があるという点です。「ワラビー萎縮症」はフタテンチビヨコバイという昆虫がトウモロコシを吸汁する際に注入される何らかの物質が影響しているとされており、被害が甚大な場合は著しく減収します(写真10)。近年では甚大な被害は確認されていませんが、発生の可能性のある地域では注意が必要です。

特性としては、特に茎葉収量性に優れており、遅播き、夏播き利用に十分な耐病性を持ち、耐倒伏性にも優れます。また、収穫時の茎葉乾物率が高く、総体乾物率が安定的に高い結果がこれまでの試験で明らかになっています。

留意点は、「ワンホープ乳剤」に対して感受性(薬害を受ける)であるため使用を避け、茎葉処理剤をご利用の際は「アルファード液剤」を選択されるようお願いいたします。

4. まとめ

以上、本稿では、スノーデントシリーズの一般的な特性についてご紹介させていただきました。しかし皆様の栽培条件は様々で、本稿の情報だけでは十分ではない部分が多くあると思います。皆様の作付け体系や栽培環境に出来るだけ合った品種選定を行っていただくためには、直接皆様の栽培条件を教えていただき、品種の提案をさせていただくことがより良い方法であると考えております。品種選定に迷われることがあれば皆様のお近くの弊社営業所または研究農場にお気軽にお問い合わせいただければ幸いです。

本年も雪印種苗をご愛顧くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。